第5章

リーディング
プロジェクト

第５章　リーディングプロジェクト

リーディングプロジェクトとは

（１）リーディングプロジェクトの考え方

リーディングプロジェクトとは、緑の４つの力である「呼び込む」「憩う」「守る」「つなぐ」を効果的に発揮し、緑の将来像を実現させる上で先導的な役割を担うプロジェクトです。

リーディングプロジェクトを通じて、市民や企業、行政が連携して、多様なニーズに即した緑の保全・活用・創出とマネジメントの取組、新たな仕組みの構築を実現し、市内に広く水平展開していくことを目指すものです。

（２）リーディングプロジェクトの展開の考え方

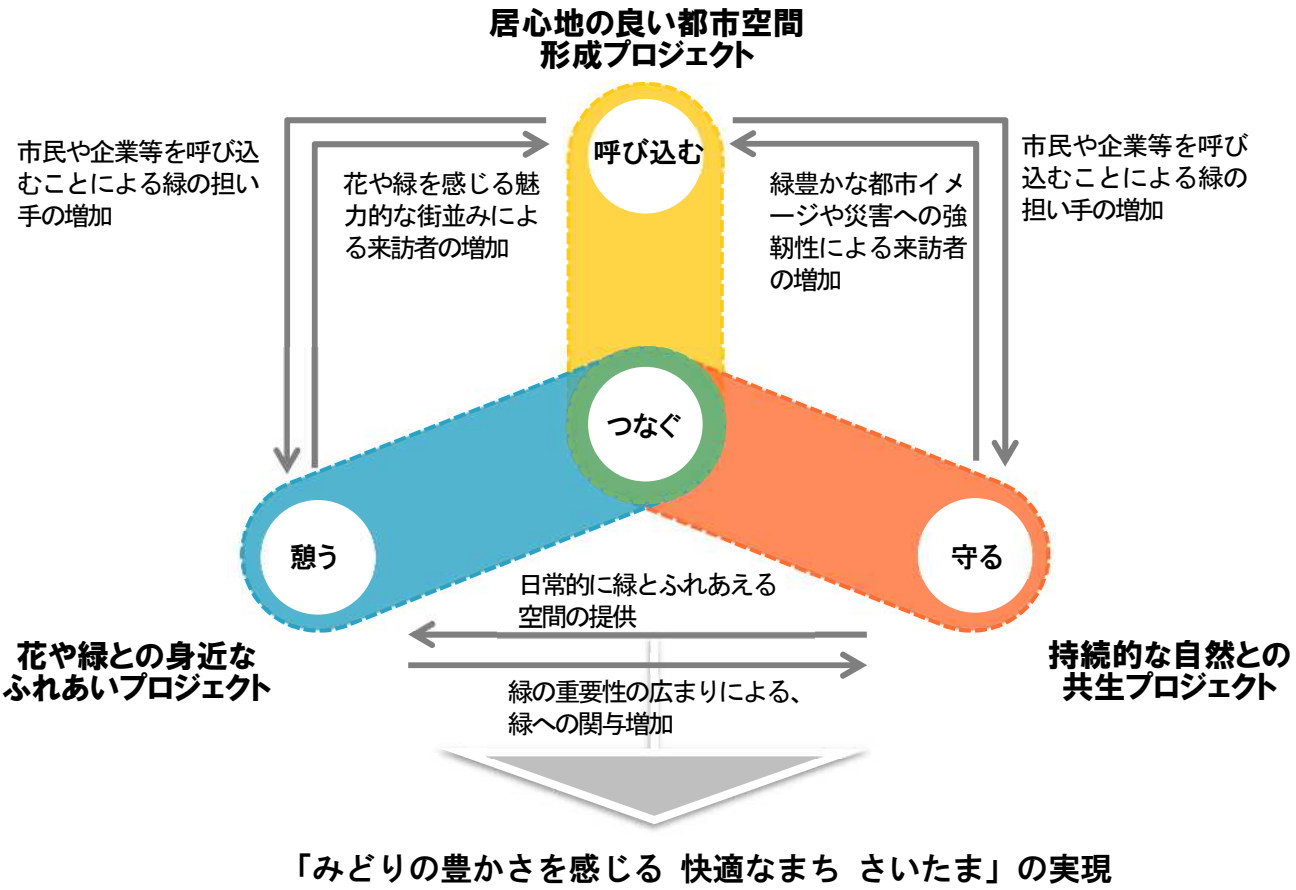
各エリアにおける先導的な実施による相乗効果の創出

３つのリーディングプロジェクトは、それぞれ緑の「呼び込む」「憩う」「守る」の力を発揮する柱となるプロジェクトとなっており、緑の「つなぐ」力を発揮することによって多様な主体が関わり合いながら展開し、お互いに相乗効果を発揮しながら、緑のまちづくりをけん引していきます。

「呼び込む」の視点では、「居心地の良い都市空間形成プロジェクト」を展開し、都市の魅力と価値を高め、国内外から多くの来訪者や居住者、企業等を招くことで、緑のまちづくりの担い手を増加させます。

「憩う」の視点では、「花や緑との身近なふれあいプロジェクト」を展開し、花や緑のある潤いのある都市空間を形成することにより、緑の重要性が広まり市民の緑への関わりを強めるとともに、魅力的な街並みが来訪者を増加させます。

「守る」の視点では、「持続的な自然との共生プロジェクト」を展開し、本市のかけがえのない自然環境を将来に渡って保全することで、日常的に緑とふれあえる空間を提供するとともに、緑豊かな都市イメージや災害への強靭性が人々を引き付けます。



リーディングプロジェクト 1 居心地の良い都市空間形成プロジェクト 呼び込む×つなぐ

（1）リーディングプロジェクトの目標

緑の多様な機能を生かして、都市の魅力と価値を高める

高度な都市機能が集積することで生じる、多くの人々や企業等の集結を生かし、公民が連携・協働してグリーンインフラの取組を推進し、緑の多様な機能を発揮させることで、居心地の良い都市環境を形成します。

特に駅周辺など都心のまちづくりの中でも重要な空間では、緑化を通じて回遊性及び滞在性を高め、にぎわいを創出します。また、見沼田圃など自然環境との近接性を生かした緑化や、デジタルを用いて緑の価値を可視化することで緑に対する関心を高めます。

こうした取組を通じて、ゼロカーボンシティの実現やスマートシティの形成に貢献していきます。

（２）施策の方向性

公民連携による緑を生かした地域の魅力と価値の向上

○グリーンインフラの取組を通じて地域の持続的な魅力と価値の向上を図るため、地域の各主体が集まり連携した取組推進の母体となるプラットフォームの構築を目指します。

○駅周辺や商店街等においては、可動式植栽を活用した緑化滞在空間の創出や、公開空地等まちなかのオープンスペースにおける緑化等を通じて、回遊性・滞留性につながる魅力的なストリートを形成し、都市の象徴となる緑ある景観により地域イメージを高めていきます。

＜施策例＞

・公民連携のプラットフォーム構築によるグリーンインフラの取組推進

・可動式植栽や気軽に座れるベンチの設置等による緑化滞在空間の創出

地域産業等を生かした緑に親しむ機会の創出

○建物緑化やオープンスペースにおける植栽等にあたり、植木苗木などの地域産業を活用していきます。

○見沼田圃等で活動している地元農家、植木生産者等と連携して、さいたまの歴史的な文脈を生かしたナラティブなアプローチをとりながら、地域産業の振興へつながる緑化や公共空間の活用を促進します。

＜施策例＞

・植木文化を生かした緑豊かな街並みの形成

・見沼田圃等で採れた農作物を活用した公共空間のにぎわい創出

緑を評価する仕組みづくり

○緑が持つ多様な機能の評価・分析を行い、地域の緑の状況をデータベース化します。

○緑の価値を可視化することで、市民や企業等の緑のまちづくりへの参画を促進します。

＜施策例＞

・樹木が持つ環境価値を数値化する仕組みの構築

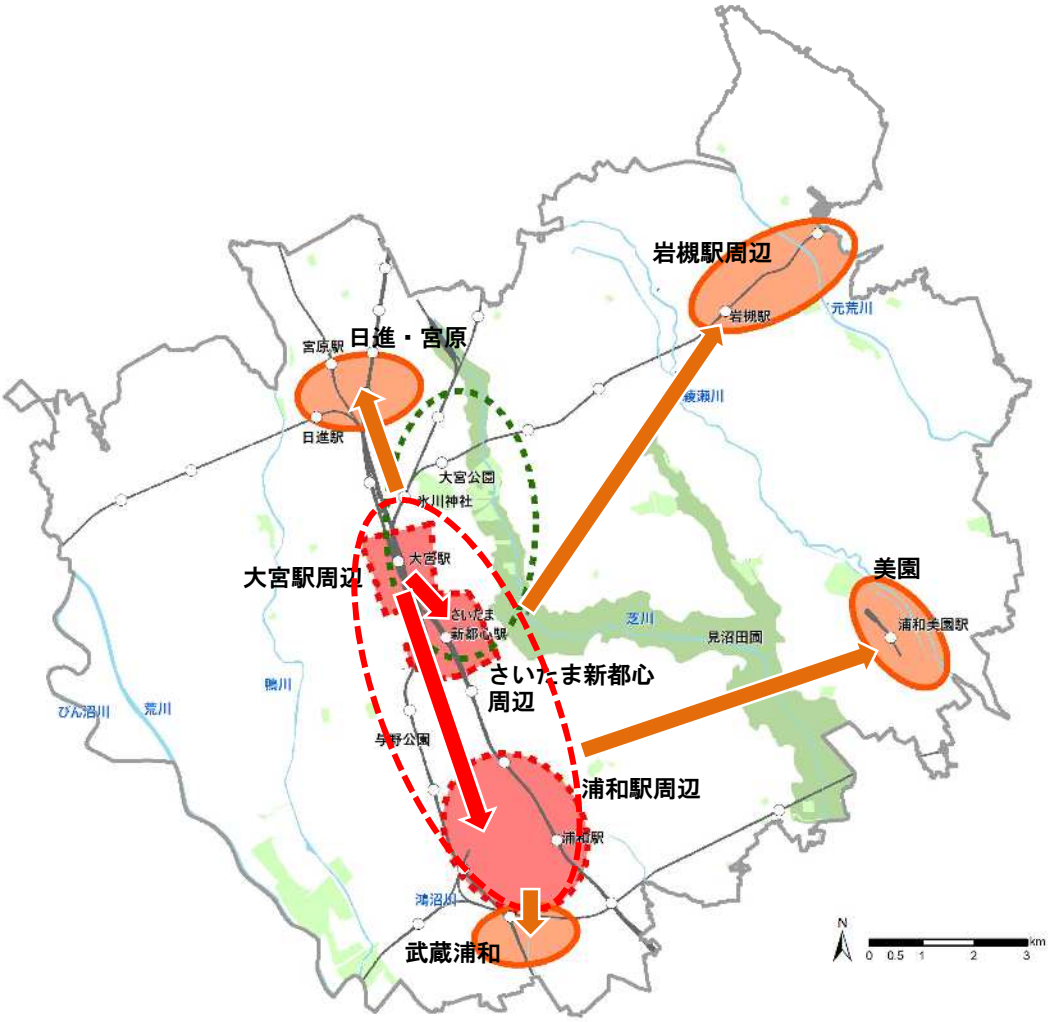
・樹木情報のオープンデータ化

■リーディングプロジェクト1の水平展開の展望

緑の多様な機能を生かして都市機能の強化を図る「リーディングプロジェクト１」は、グリーンインフラの取組を公民連携で推進する「大宮駅周辺グリーンインフラ公民連携プラットフォーム」が存在する大宮駅周辺において、先行的な試行、社会実験等に取り組みます。

その上で、さいたま新都心周辺、浦和駅周辺のまちづくりビジョン等と連動しながら、都心における取組展開を図ります。

さらに、都心３駅周辺での取組成果を生かしながら、副都心を中心に、より市内の広いエリアへと取組を広げていくことを目指します。



リーディングプロジェクト１の水平展開イメージ

（３）実施計画

施策	前期（～2025 年度）	後期（～2030 年度）	将来
公民連携による緑を生かした地域の魅力と価値の向上	モデル地区における緑化の技術・仕組の試行・社会実験	複数の都心・副都心等での緑化、組織構築に向けた検討	
地域産業等を生かした緑に親しむ機会の創出	モデル地区における地元農家、植木生産者等と連携した緑化の推進、連携先の拡大	公民による花・緑づくりの連携・ネットワーク化（LP②）と連動した実施場所・主体の拡大	
緑を評価する仕組みづくり	都市の緑の基礎調査、評価の試行・技術開発	モデル地区における評価、オープンデータ化	オープンデータを生かした市民参加型の緑施策の企画立案

リーディングプロジェクト 2　花や緑との身近なふれあいプロジェクト　憩う×つなぐ

（1）リーディングプロジェクトの目標

花や緑との身近なふれあいを通じた、緑あるライフスタイルの実現

花と緑に包まれて日々を過ごすことのできるまちを目指して、市民が主体となった花づくり、緑づくりを推進します。まちなかの貴重な緑のオープンスペースとして市民に親しまれる公園では、地域のニーズに合致した柔軟なマネジメントに取り組みます。市民が暮らしの中で日常的に花や緑と関わることで、緑ある景観がもたらす安らぎや潤い、花づくりを通じた地域交流の効果を実感できるまちづくりを進めます。

市内に特色ある花と緑のスポットを創出するとともに、相互につないでネットワークを形成し回遊性を生み出すことで、花と緑が感じられ、市民や来訪者が歩きたくなる、訪れたくなるまちの形成を目指します。

（２）施策の方向性

パークマネジメントによる地域の魅力を高める公園づくり

○市全体の公園経営の方向性を定めるパークマネジメントプランを作成するとともに、必要に応じて主要な公園のマネジメント方針を定めます。

＜施策例＞

・パークマネジメントプランの作成

・公園利用者や地域住民等による公園の柔軟なルールづくり

公共空間等における花と緑のスポットづくり

○駅前や公園、環境空間等、人々が日常的に利用する公共空間等において、地域の顔となるような特色ある花壇や緑の空間づくりに取り組みます。

○花いっぱい運動やみどり愛護会等の持続的な活動を支援するため、学校や企業等の参画を促します。

＜施策例＞

・地域の顔となるような花壇や緑の空間の創出

・花壇活動、緑地保全への企業や学校等の参加促進

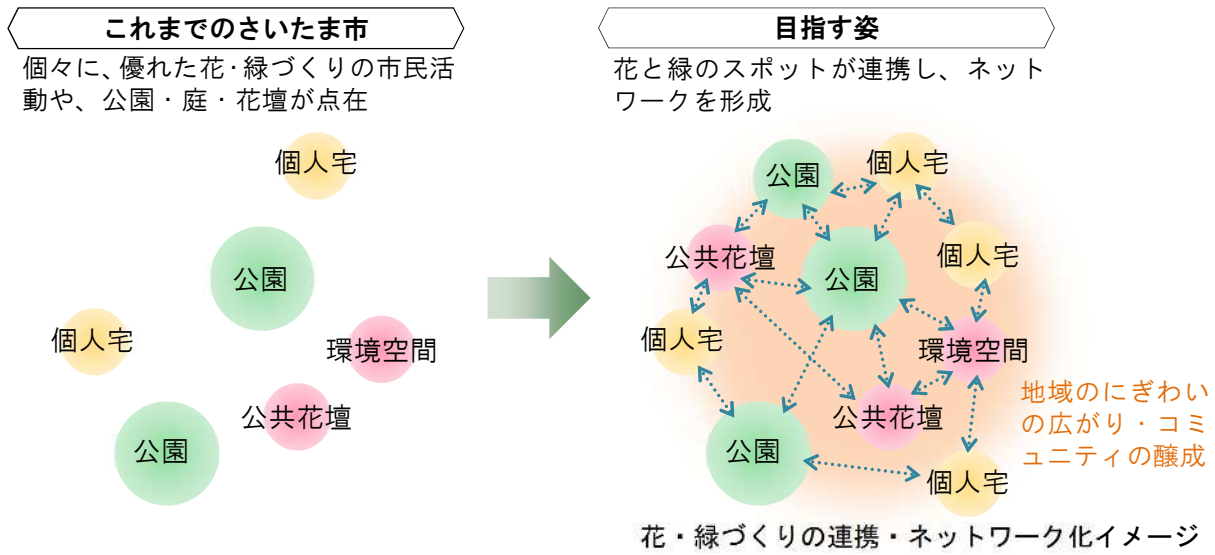
公民による花・緑づくりの連携・ネットワーク化

○本市を代表する花と緑のスポットと併せた観光ルートの設定や民間企業との連携による観光客の呼び込みなど地域のにぎわい創出や活性化に向けた取組や、花・緑づくりを通じたコミュニティの醸成につながる取組を検討し、本市らしいガーデンツーリズムの推進につなげます。

＜施策例＞

・ワークショップを通じた花・緑づくりの機運醸成

・花と緑のスポットを結ぶ回遊ルートの設定やマップ化による観光客の誘致



花・緑づくりの連携・ネットワーク化イメージ

■パークマネジメントの導入

公園は、子どもからお年寄りまで幅広い年齢層から利用され、自然とのふれあいやレクリエーション活動、ヘルスケアやスポーツ等、利用される目的は多岐にわたります。また、時代の変化や利用者のニーズが多様化しているなか、既存のストックを賢くしなやかに使いこなす考え方が求められています。

今後は、新たな機能を有する公園を整備することに加え、人中心のまちづくりの中でポテンシャルを最大限発揮するために、多様な主体と連携した持続可能な管理運営の方向性を示すパークマネジメントの考え方を導入します。

パークマネジメントの導入にあたっては、見沼田圃や荒川、元荒川周辺の豊かな自然環境や、氷川参道や盆栽村に代表される本市の歴史文化を伝える緑資源など、本市のポテンシャルを生かした特色ある公園となるよう留意します。

ー本市におけるパークマネジメントの方向性ー

公園のストック効果の発揮

公園のストック効果をより高め発揮するため、地域の実情やニーズに応じて、必要な機能や施設の導入、再編等に取り組みます。

リニューアルした常盤公園

【取組イメージ】

- 市民及び来訪者の利用シーンを考慮した公園の再編・リノベーション
- ニーズの多様化に応じた、インクルーシブやニューノーマルに対応する機能導入
- グリーンインフラの実装、脱炭素社会の実現に向けた機能導入
- 公園ＤＸ（公園の整備や管理運営におけるデジタル・トランスフォーメーション）を実現する新技術等の導入

多様な主体による公園の魅力向上と管理運営

事業者や市民、公園利用者など多様な主体が公園の整備や管理運営に携わることで、担い手を広げ、公園を最大限利活用できる環境を整備し、魅力の向上を図ります。

与野公園 Park-PFI 導入イメージ

【取組イメージ】

- Park-PFI 等の公民連携事業の導入
- 公園管理運営の担い手の確保や財政負担の低減

柔軟な公園のルールづくり

公園利用者や地域住民が、公園利用ルールについて話し合うことで、その公園の利用実態に合った柔軟な管理運営を行います。

別所沼公園協議会の様子

【取組イメージ】

- 地域住民等と連携した柔軟な利用ルールの設定
- 地域が主体となった持続的な公園の管理運営

（３）実施計画

施策	前期（～2025 年度）	後期（～2030 年度）	将来
パークマネジメントによる地域の魅力を高める公園づくり	市全体のパークマネジメント方針の策定 → 主要な公園のマネジメントプランの立案	パークマネジメント方針・プランに基づく公園の管理運営	
公共空間等における花と緑のスポットづくり	花壇づくり・緑化の候補地の調査 → 花壇づくり・緑化の基本設計	特色ある花壇や緑の空間の整備、持続的な維持管理体制の構築	
	学校や企業等への呼びかけ		
公民による花・緑づくりの連携・ネットワーク化	市民団体等と連携した花・緑づくりの機運醸成 → ガーデンツーリズムの方向性検討	公民連携によるガーデンツーリズムの推進	

リーディングプロジェクト 3　持続的な自然との共生プロジェクト　守る×つなぐ

（1）リーディングプロジェクトの目標

緑と市民の関わりを強め、自然と共生する暮らしを将来に継承する

市内に残る樹林地は、都市の環境向上に貢献するとともに、都市住民や安らぎの場となるポテンシャルを持っています。見沼田圃など斜面林や河川、農地と一体となった田園風景は、都市に居ながら自然を感じる重要な資源であり、生き物を育むとともに、独特の文化・伝統を継承してきました。

気候変動と生物多様性の損失への対策はいずれも重要な取組ですが、気候変動対策である大規模な再生可能エネルギー施設の整備等による自然環境の改変が生物多様性に影響を及ぼす等、対策を両立させていくことの難しさが全国的な課題となっています。見沼田圃をはじめとする緑地を面的に保全することは、生態系ネットワークを形成すると同時に、温室効果ガス吸収源の確保によって気候変動へのレジリエンスを高め、防災・減災や都市の気象緩和など多様な価値を発揮させることにつながります。これまで緑を守ってきた土地所有者や市民団体等の活動に加え、民間企業等の多様な主体と連携して、グリーンインフラとしての緑地の新たな価値を創出し、カーボンニュートラルと生物多様性の両立を図り、本市のかけがえのない環境資産を次世代に引き継ぎます。

（２）施策の方向性

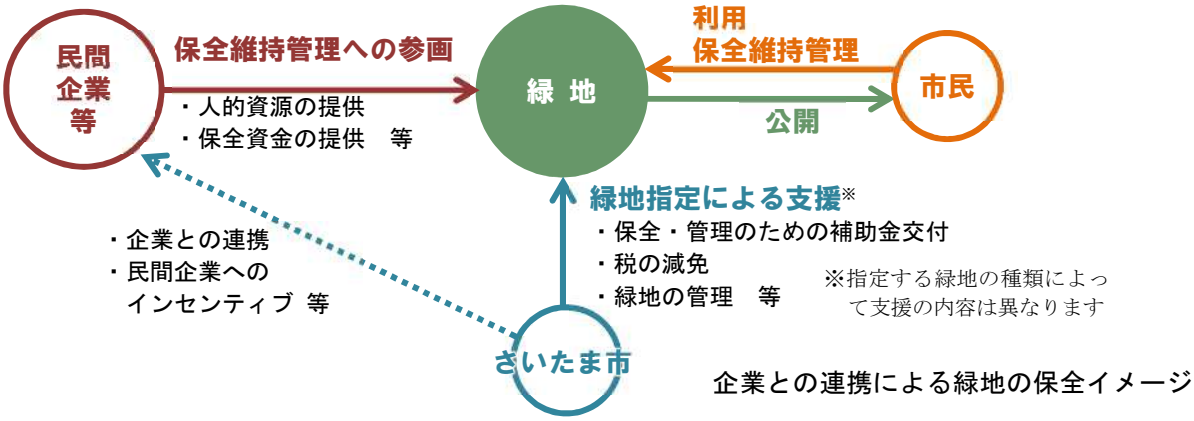
多様な主体及び技術による持続的な緑地マネジメントの推進

○市民団体や民間企業等と連携した新たな緑地の活用方法を試行し、新たな技術を活用した効率的・効果的な維持管理手法も見据えながら、持続的な緑地保全の仕組みを検討します。

＜施策例＞

・モデル地区における企業と連携した緑地活用

・市民団体や企業等が交流する機会の創出



企業との連携による緑地の保全イメージ

カーボンニュートラルに貢献する見沼田圃等の保全と活用

○見沼田圃が持つ治水や生物多様性など多様な機能のデータを取得・分析し、見沼田圃のグリーンインフラのポテンシャルを調査します。

○緑地の保全に民間活力を活用するため、見沼田圃等の大規模な緑地・農地においては、公有地や遊休農地等を活用して企業や大学等と連携しながら、温室効果ガス吸収源としての可能性を調査し、カーボンニュートラルに貢献する見沼田圃の活用方策を検討します。

＜施策例＞

・企業や大学等との連携による温室効果ガス吸収の実証実験

・カーボンニュートラルに貢献する新たな制度の検討

市民が自然とふれあう機会づくり

○本市の自然を生かした緑や生き物とふれあうことのできる機会を創出します。

○見沼田圃を生かしたさいたまセントラルパークにおいては、見沼田圃の自然・歴史・文化を継承し、広域防災拠点を補完する防災機能を有するとともに、Park-PFI 等公民連携により魅力とにぎわいがあり、かつ公園ＤＸ等新たな公園づくりの先導的モデルとなる公園づくりを進めます。

＜施策例＞

・見沼田圃等の自然を生かした緑や生き物と触れ合えるイベントの開催

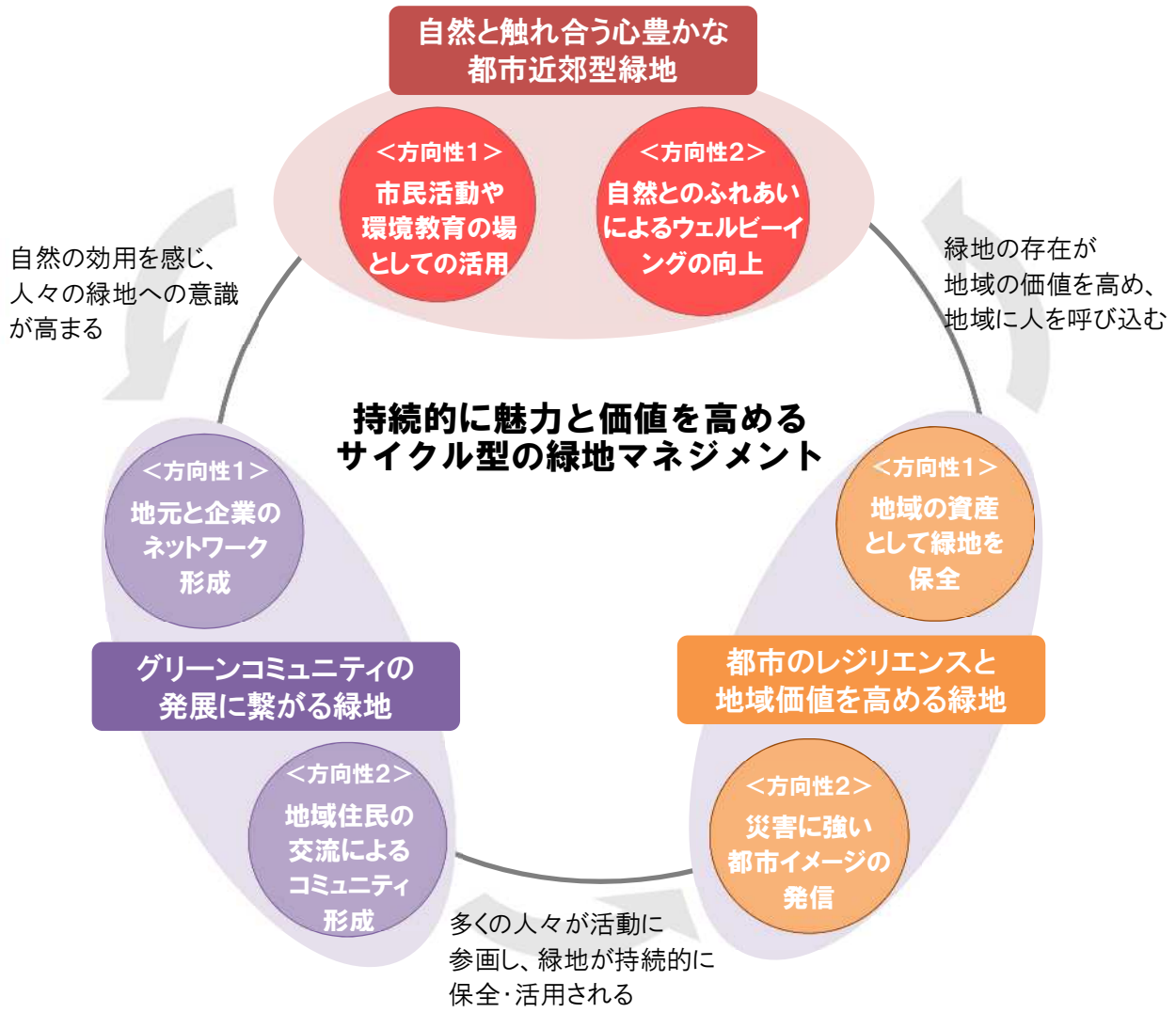
・企業等と連携した小中学生が自然とふれあう体験学習の機会創出

・さいたまセントラルパークの整備

■緑地マネジメントの考え方の導入

緑地マネジメントは、緑地を市民が自然と触れ合う活動の場として捉え、豊かな緑による潤いや安らぎが市民のウェルビーイングにつながることで、緑地としての魅力が高まり、地域の資産として次世代へと保全する機運が醸成されます。さらに、緑地は適切な保全活動を行うことで、雨水の貯留・浸透や温室効果ガスの吸収などの機能を発揮し、災害に強い都市として地域の価値を向上させ、企業からの関心を高めるとともに、新たな地域との交流が生まれ、企業と市民の一体型地域活動を創出していきます。

このように、多様な主体が参画することによって、持続的に緑地の魅力と価値を高めていくサイクル型の緑地マネジメントを推進します。



自然と触れ合う心豊かな都市近郊型緑地

期待される主な効果

- ウェルビーイングが向上する
- 自然の大切さを理解できるようになる

自然を身近にする

グリーンコミュニティの発展に繋がる緑地

期待される主な効果

- 公民連携による新たな緑地管理の仕組みが構築される
- 活動を通じて交流が生まれる

人々をつなげる

都市のレジリエンスと地域価値を高める緑地

期待される主な効果

- 災害対応力が強化される
- 地域価値が向上し、企業からの投資を呼び込む

住みやすくする

（３）実施計画

施策	前期（～2025 年度）	後期（～2030 年度）	将来
多様な主体及び技術による持続的な緑地マネジメントの推進	モデル地区の選定、企業との連携方策の検討	モデル地区における企業連携試行、試行結果を受けた仕組の改善継続	企業等が参加する緑地管理の仕組の本格稼働
カーボンニュートラルに貢献する見沼田圃等の保全と活用	大学・企業等と連携した実証実験 見沼田圃の価値の見える化、調査結果の情報発信	カーボンニュートラルに貢献する制度の検討（大学・企業等と連携）	制度の運用開始
市民が緑とふれあう機会づくり	さいたまセントラルパークの整備 都心部における見沼田圃ＰＲ	自然の魅力を活かしながら、大規模自然災害に備える拠点としての公園運用 都心部における見沼田圃ＰＲ	都心部における見沼田圃ＰＲ